

# たんぽぽ通信

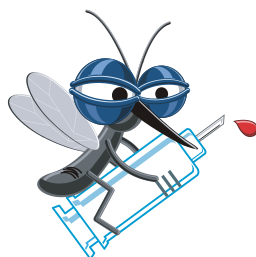
Vol. 61 2014年10月10日発行 薬局事業部

## デング熱について

デングウイルスを持った蚊に刺された後、2～15日（多くは2～7日）の潜伏期間を経て発症します。

## 蚊の生息地域

デングウイルスを保有したヤブ蚊（ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ）は東南アジア、南アジア、中南米諸国に多く生息していましたが、最近の日本は亜熱帯地域のような気候になっているためこのような事態になっていると言えます。



## 症状の特徴

38～40℃程度の熱が5～7日間持続し、頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹を伴います。軽症で済む場合がほとんどですが、まれにデング出血熱、デングショック症候群という重症になることがありますので注意が必要です。



他に特徴としては、通常感染症は、一度かかると次回以降は免疫を獲得して感染しづらくなりますが、デング熱は免疫があると逆に重症化しやすくなります。

## 治療薬は？

デング熱に対する特別な治療薬や予防薬はありません。通常は症状を抑える方法としてアセトアミノフェンを含んだ解熱鎮痛剤や輸液の投与が推奨されます。ここで注意したいのがアスピリンを含む感冒薬を服用することです。アスピリン（商品名として、バイエルアスピリン、エキセドリンA、ケロリンなど）は出血を増強する恐れがあるため、避けて下さい。



## 気をつけること

予防としては蚊に刺されないことが一番重要になります。そのためには、下記の事項を心がけましょう。

- ① 長袖、長ズボンを着用する。
- ② 防虫スプレーをこまめにつける。
- ③ 蚊が好む黒い服を避け、明るい服を着る。



## 今まで日本での発生はありますか？

海外旅行をして感染し、帰国後毎年200名前後発症しています。しかし国内で感染した例は過去60年以上ありませんでした。

2013年にはドイツ人渡航者が日本で感染したと疑われる事例があり、今年2014年8月には東京の代々木公園で感染が見つかりました。

## たんぽぽ通信からのお知らせ

ご質問、ご意見などございましたらお近くのエムトウエムの調剤薬局にご相談ください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

